

National
Parks
of Japan



環境省

国立公園満喫プロジェクト

その自然には物語がある～Stories to Experience～



—今後の新たな取組—

訪日外国人の満足度を向上させる国立公園の磨き上げ①

利用拠点の滞在環境の上質化

- 国立公園の利用拠点において滞在環境の刷新を推進
 - 民間商業施設等の導入を前提とした廃屋撤去
 - 文化資産への興味を喚起するまちなみ改善
 - インバウンド対応等による利用拠点エリアの刷新



廃屋撤去跡地に新たな民間事業を導入 (大山隠岐国立公園)



アイヌ文化の魅力を感じられる利用拠点のまちなみ (阿寒摩周国立公園)



国立公園における多言語解説の整備・充実

- ICT等を活用し、国立公園の見どころや野生動植物などを、外国人に魅力ある文章※で伝える多言語解説を充実

※日本に造詣の深い外国人有識者による監修

携帯でコードを読み取ると多言語で解説を読み上げるUni-voiceを使用 (Wi-Fi環境が不要)





—今後の新たな取組—

訪日外国人の満足度を向上させる国立公園の磨き上げ②

野生動物観光のコンテンツづくり推進

- 全国各地で保護施設の観光客への公開を含むインバウンド野生動物ツアー（ナイトツアーを含む）を造成



阿寒湖のマリモ



道東のオオワシ（羅臼／根室）



釧路湿原野生生物保護センター
（傷ついたシマフクロウを保護）

現状



海外では

オランウータン保護施設（マレーシア）の事例

<http://www.u-tour.jp/wp/kuching/semenggoh-wildlife-center/>

ビジターセンターのインバウンド対応機能強化とVR等を活用した展示の充実

- 予約機能を備えたツアーデスクにおいて、自然を満喫できるアクティビティ等の情報を一元的に多言語で提供
- 最新デジタル技術を活用し国立公園の理解を深めることにより、国立公園深部の利用を促進



イメージ

←アメリカの国立公園の
ビジターセンター
多くの利用者が、ビジターセンターで、国立公園の過ごし方を決める



イメージ

体感型大画面システム

出典）東京都水の科学館
パナソニック（株）HPより

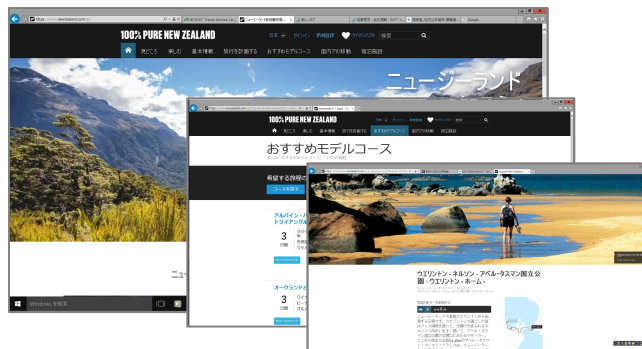


—今後の新たな取組—

インバウンドに向けた新たなプロモーション

予約まで一気通貫可能な国立公園一括情報サイト構築

- JNTOグローバルサイト（約27%が訪日時の情報源として使用）内に、全国の国立公園のモデルルートや体験アクティビティを掲載



（一括情報サイトのイメージ）
利便性の高いニュージーランド政府観光局ウェブサイト



阿蘇カルデラでのスピリチュアル体験（季節限定）
くじゅうトレッキング（阿蘇くじゅう国立公園）

体験アクティビティ例
（阿蘇くじゅう国立公園）

新宿御苑における国立公園の情報発信強化

- 年間250万人の来苑者の約半数が外国人である新宿御苑を、VR等を用いた全国の国立公園の情報発信拠点に刷新



インフォメーションセンター前へのデジタルサイネージの設置



日本地図の模型へタブレット等をかざすことで、各公園の特徴や絶景を表示

- 御苑全体を活用して自然観察体験アクティビティを提供し、本格的な体験ができる国立公園を案内



観察のイメージ写真
（コケの観察）



(参考資料)

国立公園満喫プロジェクトの取組について

① 公共施設の民間開放

環境省が所管する土地・建物の使用許可期間の延長（3年→10年に改訂）

○カフェの設置等による快適性向上

伊勢志摩国立公園

- 伊勢志摩国立公園の英虞湾の景色が一望でき、利用の中核となる横山展望台の再整備とあわせ、民間のカフェを導入

平成30年8月グランドオープン

（展望デッキ、天空カフェ、休憩所）



第1位 横山展望台（志摩市の観光スポット74件中）
Certificate of Excellence (エクセレンス認証) 獲得



休憩所(外観)



展望デッキ・休憩所
(全景)



休憩所・カフェ(内観)

② 民間事業者等との連携

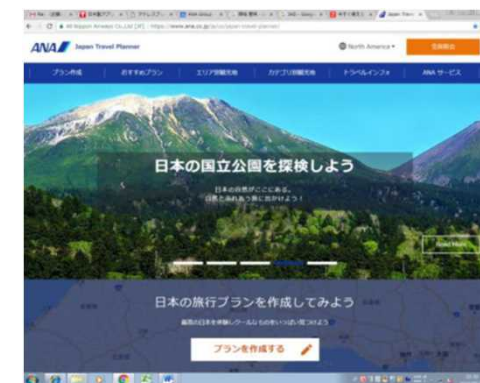
○オフィシャルパートナー等との連携

- ・ 国立公園の魅力を世界に発信する国立公園オフィシャルパートナーシップを49社と締結。締結企業による取組を継続して実施中。
- ・ 6月に新規締結した18社は、ランドオペレーター、地方銀行等の新たな分野に拡大するとともに、メディアなどの分野を充実。



※取組例：

- ・ 地方銀行による地域のアクティビティ事業者のキャッシュレス化支援
(肥後銀行@阿蘇くじゅう)
- ・ 国立公園と連携したスタンプラリーイベントの実施
(山と溪谷社@大山隠岐)
- ・ 鉄道・旅行会社と宿泊施設が連携した国立公園誘客プロモーション、商品造成 (休暇村協会、JR東日本、JTB)
- ・ ANA訪日外国人向け旅行プランニングサイトにて国立公園特集を配信ほか、各社オウンドメディアにおける発信
- ・ 国立公園をテーマにした旅行商品の造成の継続 (日本旅行)
- ・ 空港待合スペース、成田エクスプレス車内、訪日旅行センターにおける国立公園プロモーション動画の放映 (中部国際空港、羽田空港、JR東日本)



③ コンテンツの磨き上げ・受け入れ体制強化

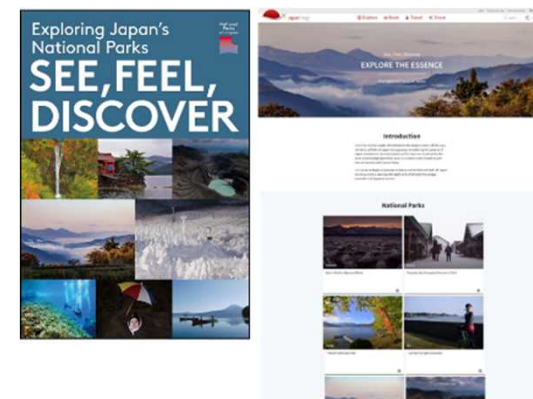
8国立公園

○ファミトリップの継続実施

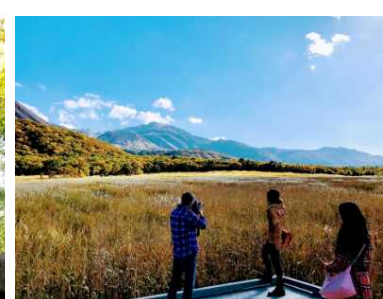
- ・地元自治体や各地域のDMO、コンテンツ事業者等と連携し、インバウンドに強い旅行会社やメディア、ブロガー等を招聘してファミトリップ(モニターツアー)を実施。強化・改善点等の聞き取りによりコンテンツを磨き上げ(昨年度は秋～冬、今年度は春～夏のコンテンツに注力)

○ファミトリップの成果を踏まえた誘客に向けた取組

- ・Japan Travelにおいて各公園の魅力を紹介する特集Web記事を作成し、Trip advisorから誘導。さらに、PRのための冊子を8万部作成し、国際空港等、ゴールデンルート沿いの外国人が立ち寄るポイントに配置。
- ・磨き上げたコンテンツは、ツーリズムEXPOジャパン2018※¹にて、国内外の旅行会社やメディアと墾展示業者のマッチング※²を行い、ビジネスチャンスを創出



(※¹ 環境省ブース来場者数:約3,000人(昨年比1.5倍) ※² 海外バイヤーとの商談件数165件)



④ 引き算の景観改善

大山隠岐国立公園

○官民連携による大山寺地区における景観改善とリニューアル

- ・大山隠岐国立公園大山寺地区において、**大山町が内閣府の交付金を活用し、廃屋を撤去**（土地：民間）。
- ・**撤去跡地にカフェや物販機能を有する「大山参道市場」を整備。**
(H30.5オープン)



撤去前の廃屋



店内にお土産・グッズ販売とカフェ併設

○三瓶山地域における景観改善

大山隠岐国立公園

- ・三瓶山地域（東の原園地）において、**市営スキー場跡地施設を地元自治体が改修して民間事業者**に提供し、事業者は新たな地域の魅力となるワイナリー設備や葡萄畑を整備。



ワイン醸造施設や売店として再生

○長者原地区における景観改善

阿蘇くじゅう国立公園

- ・九重連山登山利用の拠点である長者原地区の**ビジターセンター前の園地**において、環境省の再整備とあわせ、眺望の阻害となっていた**電線・電柱**を九州電力が**移設**。（**修景伐採**は環境省が実施）



⑤ 基盤整備

○大山森の遊歩道のICT整備

大山隠岐国立公園

- ・ブナ・ミズナラ林内に位置し、木肌に触れることができるほか、野鳥観察に適した木道「**大山森の遊歩道**」を整備
- ・大山の野鳥・植物情報や自然解説をビーコンと連動して多言語で提供する**携帯アプリ「大山自然図鑑」**を開発

(海外4カ国からの来訪者を含む500名以上がアプリをダウンロード)



○休屋園地 広場へのリニューアル

十和田八幡平国立公園

- ・十和田湖遊覧船乗り場前の通路を広場にリニューアル
- ・十和田湖を臨む開放感ある景観を創出した**活動拠点**、地域と観光客との**交流拠点**としての機能を強化。

